

校 長	教 頭	教 頭

科 目 名	実 習		教 科 名	工 業 (建築科)	
学 年	3 年	単 位 数	3 単 位	担 当 者 氏 名	印

### 1 科目「建築法規」について

学習の到達目標	工業の専門（建築）分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
使用教科書	建築構造 実教出版 建築施工 実教出版

### 2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ものづくりに関心を持ち、楽しさ喜びを知ろうとする態度を持っている。慎重で確実な作業態度が身に付いている。	基礎基本を理解し、作業の先の状況や危険性を考えて判断行動できる。	施工上の難点を理解し、きれいで正確な仕上がりを求めるための工夫をすることができる。そのための技術を習得している。	求めようとする材料にふさわしいものを選択、施工できるだけの能力を身につけている。
具体例 出席状況、提出物（作品） 授業態度	観察力、	・創意工夫やアイデア	判断力

### 3 観点別学習状況の評価の数量化

評 価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。（例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙）

### 4 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評 価 内 容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	85～100	5
十分満足できると判断されるもの	70～84	4
おおむね満足できると判断されるもの	55～69	3
努力を要すると判断されるもの	35～54	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

シラバス

科目名	実習			教科名	工業 (建築科)
学年	3年	単位数	3単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

1 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
1	4	1	オリエンテーション	実習は4グループでローテーションしながら学習する。	3年実習内容の説明・準備 (思・知・関)		
		5	第1ローテーション CAD実習 (アーキトレンド21) 基本操作 ①平面図の作成 ②屋根伏せ図の作成 ③天井伏せ図の作成 ④配置図の作成 ⑤立面図の作成 ⑥外壁仕上げ変更	・3年卒業設計に向けしっかりと基本操作ができること。 ・CADの利便・実用性を理解させる。 ・印刷した図面をチェックして手直しさせる。	・基本コマンドの使い方をしっかり理解させるようにする。(思・知・技・関) ・図面を描き始める前に、建築物の初期情報を正確に入力させる。(思・知・技・関) ・手書き図面に比べて手直しが簡単で図面も汚れることなく仕上げることを実感させる。(思・知・技・関)	授業に臨む姿勢。 課題の提出状況	実習手引き書「アーキトレンド21」によるCAD製図  ユーザーズガイド
	6  7	第2ローテーション 測量実習 トランシット測量 ①トランシットの取り扱い・すえつけと視準	・トランシットの構造をよく理解して、指示された測点に正しくすえつけられるようにし、トランシットの基本的操作を身につけさせる。	・すえつけは整準ねじによって、気泡を中央に導き、気泡管をどの方向に向けても、気泡の位置が中央からはずれないようにする (思・知・技・関)	授業に臨む姿勢。 課題の提出状況		
1学期の 評価方法		観点別評価 数量化点 (出欠、態度 (40%) 作品提出等 (60%)) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。					

シラバス

科目名	実習			教科名	工業 (建築科)
学年	3 年	単位数	3 単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

2 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
2	9		②水平角の測定  ③鉛直角の測角	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単測法によって測定し、正しい操作法と目盛りの読み取りを習熟させる。</li> <li>・指示された測点にすえつけ、指示された二つの測点のふ角・仰角の測定をおこなう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測点には杭を打って頂部に釘を打ち、その後方にポールを立てて、視準しやすいようにしておく。 (思・知・技・関)</li> <li>・気泡管の気泡が中央にあるとき、主尺の0パーニヤの0が正しく一致しているかを確認しておく。 (思・知・技・関)</li> </ul>	<p>授業に臨む姿勢。</p> <p>課題の提出状況</p>	
		10	第3ローテーション 施工 (鉄筋配筋) 実習 ①鉄筋リストの作成 ②設計図及び配筋図を作成 ③基礎ベース筋の組立作業 ④柱筋の組立作業 ⑤基礎梁筋の組立作業 ⑥検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄筋コンクリート構造の工程から行鉄筋作業の位置づけを明確にして、これから行う作業順序・要領を確認する。</li> <li>・鉄筋組立作業 (基礎ベース・柱・基礎梁の配筋) が正確にスムーズに全員で協力して施工できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トランシット測量で基準線の墨だしを正確に行う。 (思・知・技・関)</li> <li>・ベース筋を丁寧に組んでいき、柱筋を建てる時安全に十分に気をつける。(思・知・技・関)</li> <li>・鉄筋の組立作業の際は梁筋・柱筋・あばら筋・帯筋のどの順序で組み立てていくのか段取りを十分考えてから施工する。(思・知・技・関)</li> <li>・ものづくりの楽しさや完成した時の達成感を実感させる。(思・知・技・関)</li> </ul>	<p>授業に臨む姿勢。</p> <p>課題の提出状況</p>	
	11						
	12						
2 学期の 評価方法			<p>観点別評価 数量化点 (出欠、態度 (40%) 作品提出等 (60%)) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。</p>				

シラバス

科目名		実習		教科名	工業 (建築科)
学年	3 年	単位数	3 単位	担当者氏名	印

校長	教頭	教頭

3 / 3

学期	月	時間	学習内容	学習目標	学習内容・(評価の観点) 及び ※留意点	評価方法・指導	補助教材
3	1		第4ローテーション 木工実習 1. 土台の加工 ①ほぞ穴の加工作業 ②大入れあり掛け加工 作業	・墨付けの加工墨に従って各部材の切り組・きざみをするもので、建方作業が円滑に進行できるように加工が必要である。実習では材料の切り組作業をどのような方法と順序で行うかを習得する。土台・小屋組・柱の区分に従い、そのおもな仕口・継手などの作業を行う。	・ほぞ穴部分に節があるときは、節の手前より少しずつ掘り、刃のいたみを防ぐ。(思・知・技・関) ・作品を製作していく上で工具の正しい使用法を学ばせ、安全で事故がないよう心がけさせる。(思・知・技・関) ・木工材料は鉄工などと違い自然な木であるため曲がりやたわみがあり加工するには難しいことを理解させる。(思・知・技・関) ・ものづくりの楽しさや完成した時の達成感を実感させる。(思・知・技・関)	授業に臨む姿勢。  課題の提出状況	
	2		2. 柱の加工 ①ほぞ付けの加工作業				
3 学期の 評価方法			観点別評価 数量化点 (出欠、態度 (40%) 作品提出等 (60%)) 但し、規定の授業時数に達しない生徒は評価保留とする。				